



松尾から竹の寺へ —東海自然歩道を歩く—

桂川のはんらんで作物が育たなかったこの地を、用水路を引くことで見事に豊かな土地へと変えた渡来系・秦氏。農耕が進むとお米を使い、秦氏の得意とする醸造が始まりました。まだ平安京ができる以前のお話です。今回歩く東海自然歩道は京都盆地を東方に眺め、耳を澄ますと竹のきしむ音や笹の葉のざわめきが心地よいコース。



1 まつのおたいしゃ 松尾大社

お酒の神さまを祭る神社。もとは背後の松尾山にある磐座（いわくら）を祭ったのが始まりで、その後、秦氏が社殿を造営。名水「亀の井」でお酒を造ると腐らないとか。あじさい苑は街を見下ろせる山の斜面にあり、1000株約40種の花が咲きます。



とうかい し ぜん ほう どう
東海自然歩道
しばしば豊かな水量をたたえる用水路と出合います。秦氏の恩恵が今も生きている証拠。

ちょっと一服
門前名物

さか
酒まん

お酒の神さまも大好き(?)、ほんのりお酒の香りが漂う小ぶりのおまんじゅう。ノンアルコールなので子どもでもOK。



2 つきよみじんじや 月読神社

『日本書紀』に名を残す古社。境内に「結びの木」と安産祈願の「月延石（つきのべいし）」があります。



3 すずむしでら け こん じ 鈴虫寺（華厳寺）

一年中鈴虫の美しい澄んだ音色と、わらじを履いた「幸福地蔵さん」が人気。石段上からの比叡山や東山三十六峰の眺めが良い。

4 いけたい が びじゅつかん 池大雅美術館

京都北山の農家に生まれた江戸中期の画家・池大雅の作品や資料などを展示。



5 たけ てら じ ぞういん 竹の寺（地蔵院）

通称「竹の寺」。その名にふさわしく境内の半分を覆う美しい竹林に心安らぎます。一休さんが幼いころ修行をしたお寺とも。

徒歩＝約50分

拝観・見学時間は含みません

阪急嵐山線「松尾駅」

または

市バス28・29「松尾大社前」

- ▼ 徒歩3分
- 1 松尾大社
- ▼ 徒歩10分
- 2 月読神社
- ▼ 徒歩10分
- 3 鈴虫寺（華厳寺）
- ▼ 徒歩5分
- 4 池大雅美術館
- ▼ 徒歩5分
- 5 竹の寺（地蔵院）
- ▼ 徒歩15分

阪急嵐山線「上桂駅」

てくてくメモ

初夏の爽やかな風の中をウォーキング。すぐお隣の小学校区だったのですが、初めて訪れる場所もあり、「こんな所もあったんや」「静かやね」「気持ちいいね」と話しながら、親子二組で楽しく歩きました。子どもたちは鈴虫寺の幸福地蔵が一番心に残ったようです。わらじを履いたお地蔵さんが願いをかなえに来てくださるとか……。さて、子どもたちはどんなお願いをしたのかな？

子育てサポーター
（松陽小）
左から
園野泰行さん・澤
さん、富崎拓実さ
ん・尚子さん



T O P I C S

のぞましい公立高校 入学者選抜をめざして —PTAも参画する懇談会が熱い議論

現在の京都市地域（向日市・長岡京市・大山崎町を含む）における公立高校入学者選抜制度は、昭和60年度、近くの地域の高校に通学できることを基本としつつ、希望によって学校の特色を選んで志願することもできる選抜制度への改善を目指して導入されました。しかし20年以上が経過し、中学生の興味・関心、能力・適性の多様化が進むに従い、進路志望の多様化がより一層進み、今までよりも多くの高校の中から進学先を選びたいという希望が強まってきました。また、交通網の発達等により通学条件の改善が図られてきたことなど当時とは異なる状況となっています。

このような中、中学生にとってより一層望ましい公立高校の通学区域と選抜方法のあり方について、保護者（PTA）の皆様や学校関係者それぞれの立場から幅広いご意見をお聞かせいただくため、府市協調のもとで懇談会を設置しました。6月中旬までに全5回程度の会議を開催し、新しい選抜制度に向けた「まとめ」を発表する予定です。

※会議は傍聴者10名程度に公開するとともに、各回終了後、概要をホームページに掲載しています（学校指導課 <http://www.edu.city.kyoto.jp/gakkoshido/>）

家庭・地域・学校で 生涯学習の推進を —取組の目標を作成

本市では、生涯学習の推進計画「京都市生涯学習新世紀プラン」に基づき各事業を展開していますが、このほど、平成19年度に取り組む生涯学習の重点施策をまとめた「生涯学習推進のための『取組の目標』」を作成しました。「取組の目標」では、家庭・地域・学校において、さらに生涯学習を推進していくため、7つの施策の柱を提示。それぞれの現状や課題、対応する事業を盛り込んでいます。

= 7つの施策の柱 =

- ① 創造的な学びの機会づくり
京都ならではの「学び」と学習資源を活用した学習機会の提供等
- ② 身近な学びの拠点づくり
身近な「学びの拠点」整備と学習支援機能の充実
- ③ 学びと出会う仕組みづくり
学習情報の提供と学習相談機能の充実
- ④ 学びにあふれたまちづくり
多様な学習資源を発掘・活用。学習課題を調査研究
- ⑤ 学んだ成果を確かめるシステムづくり
学習成果が認められ、生かされる場を創造
- ⑥ 学びを通してふれあう地域づくり
地域全体で「学びと交流」が深められる環境づくり
- ⑦ 学びを支える人づくり
人材発掘と指導者の活躍の場の整備、ネットワークの充実

●問い合わせ＝生涯学習推進担当 ☎222-3184

第9回「地域教育フォーラム・イン京都」

● 地域ぐるみ・社会総がかりの教育の推進

義家弘介氏（教育再生会議担当室長）の講演の後、8つの分科会で実践発表や講演とパネルディスカッションを行います。

【日 時】平成19年7月31日（火）
午前9時50分（受付9時30分）～午後4時30分

【場 所】国立京都国際会館（左京区宝ヶ池）

【入 場】無料

【申込み】各学校等で配布の参加申込書を、7月27日までに、地域教育専門室（☎254-5007、☎254-5008）へ郵送またはFAX。※当日受付も可（ホームページでも受付 <http://www.edu.city.kyoto.jp/chikyousen/>）

翌8月1日（水）は小中一貫教育全国サミットを同会場で開催 ●問い合わせ＝学校指導課 ☎222-3815

7月31日（火）



義家弘介氏

門川大作教育長が衆議院で 意見表明・答弁（教育再生特別委員会）

内閣の教育再生会議や中教審の委員を務める本市の門川大作教育長が5月15日、衆議院の教育再生特別委員会で参事人として意見陳述し、6党からの質問に答弁。門川教育長は、学校・家庭・地域が当事者意識をもって、お互いが自らを振り返りつつ共に高め合う学校評価や学校運営協議会設置等、京都方式の市民ぐるみの教育改革を紹介しました。

教育再生のためには、教職員の増員や頑張っている先生への処遇の改善等の必要があ

ることを訴えるとともに、本市独自予算による中学3年30人学級や普通教室全室冷房化などの取組を報告。地方分権を大切に一人ひとりの子どもの学び・育ちに焦点を当て、いかに学校改革を進めるかが重要と強調しました。



from EDITORS

- 子どもは想像以上に親のことを大切に思っているそうです。それは不登校や家庭内暴力などを抱える家庭でも同じ。親は、わかりきったことと思わず「あなたが大切」とゆったりとした時間の中で、しっかり伝えてあげてほしい、という有井先生の言葉が胸に残りました。
- 「京都まなびの街 生き方探究館」で体験学習にのぞんだ子どもたち。元気にタイムサービスを呼びかける子、黙々と商品を磨く子、率先して裏で書類を整理する子。自分の新たな一面に気づきかけになったかもしれません。

編集後記